



12月定例会

今定例会も新型コロナウイルス対策として、演壇に飛沫を防ぐアクリル製ついたてを設置、換気の徹底などを講じた上で執り行われ、令和三年度一般会計補正

十二月定例会は7日に開会、十五日間の審議を経て21日に閉会しました。
今定例会では、新型コロナウイルス感染症対策や震災・原子力災害からの復興に向けた取組など、緊急に措置すべき経費について議論が交わされました。

予算案を含む54議案を原案通り可決、追加提案の人事案4件に同意、決算5件を認定しました。主なものとしては、「ワクチン・検査パッケージ」の活用

を推進するための検査体制の整備費用や感染症防止対策認定店で利用できる電子食事券の追加販売、米価下落を受けた農家に対する種もみの購入を支援するための経費など当初提出された283億8700万円、国の新たな経済対策を受けて追加提出された253億9900万円、合わせて総額537億8600万円の一般会計補正予算となります。

最終本会議では、商労文教委員長となって初めての委員長報告に臨みました。また今回、新たに3つの調査特別委員会「復興加速化・安全安心な県づくり」「県民健康・こどもの未来」「産業再生・環境共生」が設置され、わたしは産業再生・環境共生特別委員会に所属となりました。

補正予算537億8千万円



新年のごあいさつ



明けましておめでとうございます。

この2年間は、武漢発コロナとその変異型のオミクロン株のため、日本中が逼迫状態でした。しかし、三度目のワクチン接種が始まり、特効薬が認可されるなど、今年は明るい展望が開けそうです。

今年一年の皆様のご多幸をお祈り致しますと共に、佐藤義憲県議へのご支援を宜しくお願い致します。

佐藤よしのり後援会会長 米山高仁

令和四年、謹んで新春のお喜びを申し上げます。皆様にとって希望にあふれる一年となりますよう、心からお祈り致します。

さて昨年は、東京オリンピックが無観客で開催されなど、日常と異なる状況下にあってもなお、逆境をはねのけ活躍する日本人選手の姿に我々国民は勇気と感動をもらいました。

コロナ禍で一変した我々を取り巻く環境も、発想を変え、様々なイノベーション(革新)をもたらす社会の変革期と捉えることで、新たなモノや価値を生み出し創造する原動力となります。

「明けない夜はない」そう信じて今年一年も頑張ってください。本年も変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

福島県議会議員 佐藤義憲



— シーズン到来 —
スノーボード&スキー

年越し寒波という予報通り、12月下旬の会津にも沢山の雪が降り積もりました。生活する上では色々厄介な雪ですが、水資源のダム機能としての役割を担い、豊かな自然を育み美味しい恵みを我々にもたらしてくれそうです。

同時に、ウィンタースポーツや美しい雪景色を楽しむ会津の冬の観光には無くてはならず、私も年に数回、趣味のスキーを思う存分楽しんで、心と体をリフレッシュさせています。

皆さんもこの冬、県が取り組む宿泊割引やスキー教室のバス代補助などを活用して、利雪、雪遊を楽しんでみませんか。



会津地方観光推進議員連盟県要望

12月20日、会津地方観光推進議員連盟の皆様が県庁を訪れ、井出副知事、県観光交流局の國分局長、渡辺義信県議会議長、佐藤政隆副議長に対し、大きく六つの要望をいたしました。

今回は顧問として同席し、それぞれの要望について執行部にフォローいたしました。

- 以下は要事項
- ①会津17市町村への教育旅行誘致支援
 - ②熱塩・芦ノ牧間広域観光サイクルツーリズム促進
 - ③JR只見線利活用と奥会津の観光振興
 - ④観光農園と里山ツーリズム普及促進
 - ⑤仏都會津のPRと観光利用
 - ⑥県民割の延長



十二月定例会での各部会のテーマ

十二月定例会中、

14日および15日には、自民党派内に設置されている六つの部会が開かれ、県執行部との意見交換を行いました。



- 【総務部会】
 - ▼本県における私立学校への助成について
 - ▼企画環境部会
 - ▼国際教育研究拠点の検討状況について
 - 【福祉公安部会】
 - ▼ワクチン・検査パッケージについて
 - 【商労文教部会】
 - ▼中期ビジョン検討委員会におけるハイテクプラザの在り方の検討について
 - 【農林水産部会】
 - ▼新しい福島県農林水産業振興計画について
 - 【土木部会】
 - ▼令和三年度十二月補正予算の概要
 - ▼福島県土木・建築総合計画「安全・安心、豊かさを次代につなぐ県土づくりプラン」案について
- また、各々の部会では、今定例会に提出された請願および意見書の採択態度についての協議も行っております。

会津地方最大の初市「十日市」

二年ぶりに開かれる会津若松市の新春の風物詩「十日市」。その起源は蘆名氏の重臣が記した「富田家年譜」や江戸時代に書かれた「若松風俗帳」によれば、幕末直盛の代の至徳元年（1384年）正月十日、大町（現在の鶴ヶ城西側山鹿町付近）に住吉大社を祀り、市を開いたことに由来します。その後、さらに蒲生氏郷の時代、黒川の名は若松に改められ、城下の整備が進むとともに大町は現在の場所に配置されました。同時に十日市は、この地に古くからあった田中稲荷を「市神」として、



を願い開かれ、会津地方最大の初市となりました。市では、軸を豆で留めた縁起物、まめ（元氣）で商売がくるくと願調に回るようにと願いが込められた「風車」や子孫繁栄を願う家族より一つ多い数を買い求める「起き上り小法師」が売られます。

この「起き上り小法師」も、蒲生氏郷が関係しています。氏郷が織田信長の家臣であった頃、稲葉山城攻めに七回失敗し八回目で攻略した信長は「我、正に起き上り最中也」と述べたといわれています。氏郷は「七転び八起」の語源となったこの事や信長の達磨信仰を倣い「起き上り小法師」を広めたといわれています。

編集後記

新たな年を迎え、今年には壬寅（みずのえとら）年で、「陽氣を孕み、春の胎動を助く」、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれる年になると言われています。

これまでの壬寅の年の出来事を見てみよう。1962年はキューバ危機回避、1902年は日英同盟締結、1842年はアヘン戦争終結、さらにさらに遡ること1602年は江戸幕府が開かれる直前の年と、何らかの出来事や時代が終わりを告げる、あるいは新しいことが始まるといった、時代の変革期とも読み取ることができそうです。

この二年間、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい全世界が苦境に立たされました。壬寅の今年、感染症の拡大が終わりを迎え、我々人類の新しい時代の幕開けとなる一年になることを願ってやみません。

福島県造園建設業協会顧問の委嘱を受けました



12月27日、一般社団法人福島県造園建設業協会の皆川勝治副会長、津瀧一実理事より委嘱状を頂戴いたしました。

協会が掲げる自然環境の保全や緑化推進の理念に基づき、造園技術の向上や後進の育成と業界の発展を通じて、緑豊かな県土づくりと県民が快適な生活空間を享受できるよう取り組んで参ります。

1月の活動予定

- 【4日】会津若松市新年市民交歓会
 - 【5日】市公設地方卸売市場初せり式
 - 【9日】令和4年会津若松市成人式、會津民謡協会総会
 - 【13・14日】自民党政務調査会（県庁）
 - 【29日】県看護連盟新年交歓会
- （12月28日現在）